



▲写真1:ジョロウグモ(アシナガバチを捕食しているところ)



▲写真2:オオアオイトトンボ

理学部附属 植物園のいきものたち

第18回

今月は秋の虫を二つ紹介します。

秋になると肥えるのは馬だけではない。秋に大量の卵を産んでその生活史を全うする虫たちのメスは秋になると丸々と肥え太る。代表的なものにはカマキリやジョロウグモ(写真1, アシナガバチを捕食しているところ)がある。秋遅くになって丸々肥え太ったジョロウグモを解剖すると腹の中にはピンク色をした卵巣がぎっしり詰まっている。造網性のクモ類はメスがオスより大きいことが多いが、なかでもこのジョロウグモは雌雄の大きさの違いが極端である。オスはたいていメスの巣の隅っこに居候している(写真1の左上)。日本では最大級のクモであるが、南西諸島にはさらに大型のオオジョロウグモがいる。「女郎蜘蛛」と書かれることが多いが、語源は「女郎」ではなくて「上臈」だとされている。

写真2はオオアオイトトンボのオス。金属光沢のある緑色の美しいイトトンボである。秋遅くに繁殖のために水辺にやってくる。水際の樹木の枝の組織内に産卵する習性があり、草よりも木の枝に止まっていることが多い。アオイトトンボ類は翅をたたまず広げたままで止まるのが特徴である。

(写真・解説 樋上正美)